

CASBEE® - 建築(新築)

評価結果

■ 使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2021SDGs(v1.1)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)浜松市中区西伊場町計画新築	階数	地上7F
建設地	静岡県浜松市中区西伊場町2300番	構造	RC造
用途地域	第一種住居地域	平均居住人員	368 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2024年2月 予定	評価の実施日	2022年7月25日
敷地面積	5,434 m ²	作成者	原田創一
建築面積	1,325 m ²	確認日	2022年7月25日
延床面積	8,082 m ²	確認者	北條隆幸



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.3

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

30%: ★★★★★ 60%: ★★★★★ 80%: ★★★★★ 100%: ★★★★★ 100%超: ★

①参照値 ②建築物の取組み ③上記②以外の ④上記+

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 3.2

Q1 室内環境

Q1のスコア= 3.3

Q2 サービス性能

Q2のスコア= 3.5

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア= 2.7

LR のスコア = 3.2

LR1 エネルギー

LR1のスコア= 4.1

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア= 2.7

LR3 敷地外環境

LR3のスコア= 2.7

3 設計上の配慮事項		
総合		その他
先端技術と、未来の残すべき「歴史、文化、自然、精神、」とを融合し、『浜松のこれまでの100年と、これからの100年を紡ぐまち』と位置付け計画した。		0
Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境(敷地内)
エントランス等共用部の開口などを工夫し自然採光を十分にとるとともに、空調を設けることにより、住戸内環境との格差をなくした。	免振建築物とし、電源バックアップなどを設け災害に強い計画とした。	敷地内に十分な植栽を設け、良好な景観を形成するよう計画した。
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
外皮性能の強化及び一次エネルギー消費を抑えることにより、環境負荷の少ない計画とした。	地球温暖化係数又はオゾン層破壊係数の少ない発泡剤、冷媒等を使用し、地球環境に配慮し計画した。	庭園灯などを工夫し光害に配慮した計画とした。

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■ 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■ 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE®-建築(新築) 2021年SDGs対応版

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2021SDGs(v1.1)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)浜松市中区西伊場町計画新築	階数	地上7F
建設地	静岡県浜松市中区西伊場町2300番	構造	RC造
用途地域	第一種住居地域	平均居住人員	368 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2024年2月 予定	評価の実施日	2022年7月25日
敷地面積	5,434 m ²	作成者	原田創一
建築面積	1,325 m ²	確認日	2022年7月25日
延床面積	8,082 m ²	確認者	北條隆幸



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.3 ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算 ★★★★★

30%: ☆☆☆☆ 60%: ☆☆☆ 80%: ☆☆☆ 100%: ☆☆ 100%超: ☆

①参照値 100%
②建築物の取組み 115%
③上記+②以外の 113%
④上記+ 113%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比較したライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです。

2-3 建築環境SDGsチェックリスト評価結果

* SDG1,2,10,14,16は他のゴールに集約されています

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 3.2

Q1 室内環境

Q1のスコア= 3.3

Q2 サービス性能

Q2のスコア= 3.5

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア= 2.7

LR 環境負荷低減性

LR のスコア = 3.2

LR1 エネルギー

LR1のスコア= 4.1

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア= 2.7

LR3 敷地外環境

LR3のスコア= 2.7

3 設計上の配慮事項		その他
総合 先端技術と、未来の残すべき「歴史、文化、自然、精神、」とを融合し、『浜松のこれまでの100年と、これからの100年を紡ぐまち』と位置付け計画した。		0
Q1 室内環境 エントランス等共用部の開口などを工夫し自然採光を十分にとるとともに、空調を設けることにより、住戸内環境との格差をなくした。	Q2 サービス性能 免振建築物とし、電源バックアップなどを設け災害に強い計画とした。	Q3 室外環境(敷地内) 敷地内に十分な植栽を設け、良好な景観を形成するよう計画した。
LR1 エネルギー 外皮性能の強化及び一次エネルギー消費を抑えることにより、環境負荷の少ない計画とした。	LR2 資源・マテリアル 地球温暖化係数又はオゾン層破壊係数の少ない発泡剤、冷媒等を使用し、地球環境に配慮し計画した。	LR3 敷地外環境 庭園灯などを工夫し光害に配慮した計画とした。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される



欄に数値またはコメントを記入

1. 建物概要						
建物名称	(仮称)浜松市中区西伊場町計画新築工事	BEE	1.3	BEEランク	B+	★★★

2. 重点項目への取組み度						
重点項目	得点*/満点	取組み度	評価			
"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進 (Global Warming)	3.7 /5		ふつつ			
"災害に強いしずおか"の形成 (Disaster)	3.2 /5		ふつつ			
"しずおかユニバーサルデザイン"の推進 (Universal Design)	3.2 /5		ふつつ			
"緑化及び自然景観"の保全・回復 (Nature)	3.0 /5		ふつつ			
※対応するCASBEEのスコア(平均)を5点満点で表示します。(スコア1.0=1点、スコア5.0=5点)		評価 凡例	よい 4 点以上	ふつつ 3 点以上	がんばろう 3 点未満	

3. 重点項目についての環境配慮概要		内訳対応項目					
各項目について配慮した内容を、該当する番号(①~)を示し記述してください。							
"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進(Global Warming)		得点				3.7	
	■室内環境対策 (①室温制御/②昼光対策/③グレア対策/④部品・部材の耐用年数) エントランス等共用部の開口などを工夫し自然採光を十分とるとともに、空調を設けることにより、住戸内環境との格差をなくした。免振建築物とし、電源バックアップなどを設け災害に強い計画とした。	Q-1	2	2.1	2.1.2	①	外皮性能
		Q-1	3	3.1	3.1.3	②	昼光利用設備
				3.2	3.2.1	③	昼光制御
		Q-2	2	2.2	2.2.1	④	躯体材料の耐用年数
				2.2.2	④	外壁仕上げ材の補修必要間隔	
				2.2.3	④	主要内装仕上げ材の更新必要間隔	
				2.2.4	④	空調換気ダクトの更新必要間隔	
				2.2.5	④	空調・給排水配管の更新必要間隔	
				2.2.6	④	主要設備機器の更新必要間隔	
■室外環境(敷地内)対策 (⑤生物環境の保全と創出/⑥敷地内温熱環境の向上) 敷地内に十分な植栽を設け、良好な景観を形成するよう計画した。	Q-3	1			⑤	生物環境の保全と創出	
		3	3.2		⑥	敷地内温熱環境の向上	
■エネルギー対策 (⑦建物外皮の熱負荷抑制/⑧自然エネルギー利用/⑨設備システムの高効率化/⑩効率的運用) 外皮性能の強化及び一次エネルギー消費を抑えることにより、環境負荷の少ない計画とした。	LR-1	1			⑦	建物外皮の熱負荷抑制	
			2		⑧	自然エネルギー利用	
			3		⑨	設備システムの高効率化	
			4	4.1		⑩	モニタリング
				4.2	⑩	運用管理体制	
		LR-2	1	1.1	⑪	節水	
				1.2	1.2.1	⑪	雨水利用システム導入の有無
					1.2.2	⑪	雑排水等利用システム導入の有無
				2.1	⑫	材料使用量の削減	
				2.2	⑫	既存建築躯体等の継続使用	
				2.3	⑫	躯体材料におけるリサイクル材の使用	
				2.4	⑫	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	
				2.5	⑫	持続可能な森林から産出された木材	
				2.6	⑫	部材の再利用可能性向上への取組み	
				3	3.1	⑬	有害物質を含まない材料の使用
			3.2	3.2.1	⑬	消火剤	
				3.2.2	⑬	断熱材	
				3.2.3	⑬	冷媒	
■敷地外環境対策 (⑭地球温暖化への配慮/⑮温熱環境悪化の改善) 庭園灯などを工夫し光害に配慮した計画とした。	LR-3	1			⑭	地球温暖化への配慮	
		2	2.2		⑮	温熱環境悪化の改善	
"災害に強いしずおか"の形成(Disaster)		得点				3.2	
	■サービス性能対策 (⑯耐震・免震/⑰信頼性) ⑱制振装置の採用。	Q-2	2	2.1	2.1.1	⑯	耐震性
					2.1.2	⑯	免震・制振性能
				2.4	2.4.1	⑰	空調・換気設備
				2.4.2	⑰	給排水・衛生設備	
				2.4.3	⑰	電気設備	
				2.4.4	⑰	機械・配管支持方法	
				2.4.5	⑰	通信・情報設備	
"しずおかユニバーサルデザイン"の推進(Universal Design)		得点				3.2	
	■サービス性能対策 (⑱機能性・使いやすさ/⑲心理性・快適性/⑳空間のゆとり) ⑳バリアフリー法誘導基準相当の計画とした。	Q-2	1	1.1	1.1.3	⑱/⑲	ユニバーサルデザイン計画
				3	3.1	3.1.1	⑲
					3.1.2	⑲	空間の形状・自由さ
		Q-3	3	3.1		⑲	地域性への配慮、快適性の向上
"緑化及び自然景観"の保全・回復(Nature)		得点				3.0	
	■室外環境(敷地内)対策 (⑤生物環境の保全と創出/㉑まちなみ・景観への配慮/⑥敷地内温熱環境の向上) ⑤建物廻りに高木、中木、低木を配置し外構緑地指数23%以上を確保した。	Q-3	1			⑤	生物環境の保全と創出
				2		⑷	まちなみ景観への配慮
				3	3.2		⑥
	■敷地外環境対策 (⑫持続可能な森林から産出された木材/⑮温熱環境悪化の改善) ⑮外構の全舗装面を浸透性とした。	LR-2	2	2.5		⑫	持続可能な森林から産出された木材
		LR-3	2	2.2		⑮	温熱環境悪化の改善